

研 究

予防接種を受ける幼児への親のかかわり

～自由記述の分析を通して～

藤沼小智子¹⁾, 佐鹿 孝子²⁾

〔論文要旨〕

予防接種を受ける幼児に対して、親がどのようなかかわりをしているのかを明らかにすることを目的として、A市内の公立保育所3ヶ所と私立保育所2ヶ所を利用している、1～6歳の幼児464名の親を対象とした自記式質問紙調査を実施した。188名を分析対象とし、自由記述の内容を意味ある分節で抽出し、カテゴリー化した。

予防接種を受ける幼児への親からのかかわりは、動機づけやイメージ化の促し、説明を理解できるような工夫、情緒的なサポートなどをしていた。しかし親のかかわりは子どもへの認知面への働きかけが多く、子どもが自分の力を出せるように安心させ気持ちを奮い立たせるようなかかわりが十分にできていないことがわかった。

Key words : 親, 予防接種, 幼児, かかわり

I. はじめに

小児医療において、日常的なケアの一つであるプレパレーションは、子どものみを対象とするのではなく、子どもの適応力を高めるために両親も参加するべきであるといわれている¹⁾。プレパレーションとは、医療を受けるとき、子どもが感じるさまざまな不安や恐怖感を、医療者が嘘をつかないで『何が起こるか』を子どもがわかる方法で説明し、子どもの心理的混乱を予防したり緩和したりする。これによって、子どもが頑張れたという実感ができるようにかかわり、子どもの健全なこころの発育を支援することである²⁾。幼児期の子どもは自己中心的な思考が特徴であり、認知段階は具体的な事物や行動に即した理解が中心である。親であるからこそ、子どもの経験につなげた具体的な説明ができるのである。

親から子どもへの説明は、採血や入院、受診時に5～8割で実施されていたが^{3,4)}、説明の内容は、処置などの内容と、理由を告げて協力を促す言葉や、不安を取り除き診察を受けさせる言葉、明らかに根拠のない嘘をつくなどであり、親から子どもへ正しい説明がなされていない³⁻⁶⁾。また親は処置時に子どもの対処能力を高める有効なかかわりが行えないとの報告もある⁷⁾。

予防接種を受ける際、親から子どもへの説明がないままに医療機関等へ受診し予防接種を受けることは、子どもにとって親への信頼を損なう行為といえる。そこで本研究では予防接種を受ける子どもに対して親がどのようなかかわりをしているのかを明らかにすることで、看護の方向性を検討していきたい。

How Parents Concern Their Young Children Who Should Have Vaccines :
Analysis of the Free Description of Questionnaires by Content Method
Sachiko FUJINUMA, Takako SASHIKA

〔2697〕

受付 14.12.1

採用 15.2.27

1) 埼玉医科大学保健医療学部看護学科 (看護師 / 研究職)

2) 埼玉医科大学大学院看護学研究科客員教授 (教育職 / 研究職 / 看護師)

別刷請求先: 藤沼小智子 埼玉医科大学保健医療学部看護学科 〒350-1241 埼玉県日高市山根1397-1

Tel : 042-984-4908 Fax : 042-984-4804

II. 研究目的

親が、予防接種を受ける幼児へどのようなかわり
をしているのかを考察する。

III. 研究方法

1. 研究対象

A 市内の公立保育所 3 ヶ所と私立保育所 2 ヶ所を
利用している 1 ～ 6 歳の幼児464名の親。

2. 調査期間

平成25年 4 ～ 7 月。

3. 調査内容

回答者の属性および対象となる子どもの特徴と自由
記述形式の設問にて、予防接種の際に説明する内容(以
下、説明内容)と、子どもへの説明時に心がけている
こと(以下、心がけ)を調査した。調査内容は表 1 に
示す通りである。

4. 分析方法

回答者の属性および対象となる子どもの特徴、予防
接種の説明については単純集計した。自由記述部分は
意味を含む最小単位(句、節、文)にコード化し、類
似したコードを集約してサブカテゴリーへ、サブカテ
ゴリーを集約してカテゴリーとした。分析にあたって

表 1 質問紙の内容 (一部抜粋)

I 保育園に通園する中で年長のお子さんについて	
1) 性別	1. 男 2. 女
2) 年齢	() 歳 () か月
3) 何番目のお子さんですか?	() 番目
4) 入院の経験はありますか?	1. 有 2. 無
5) 定期的な治療や受診が必要な病気がありますか?	1. 有 2. 無
II お子さんへの説明について	
1) 予防接種の際、お子さんにどのように説明しますか? 説明の内容を具体的にご記入ください。	
2) お子さんへの説明の際、心がけていることがあれば教えてください。	
III プレパレーションについて	
プレパレーションとは、「医療を受けるとき、子どもが感じるさまざまな不安や恐怖感を、医療者が嘘をつかないで『何が起こるか』を子どもがわかる方法で説明し、子どもの心理的混乱を予防したり緩和したりする」ことです。	
例) お子さんが医療を受ける前にお子さんに合った方法で説明を受けること 処置等の間に子どもの気を紛らわすこと など	
1 プレパレーションというのを知っていますか?	1. 知っている 2. 知らない
2 1の回答が「知っている」の方に伺います。	
1) プレパレーションをどこで知りましたか?	
①TV ②新聞 ③インターネット・ブログ等 ④研修会・学会	
⑤病院や医療機関 ⑥その他	
2) お子さんやきょうだいは医療者などからプレパレーションを受けたことがありますか?	
1. 有 2. 無	
3) 2)の回答が「有」の方に伺います。	
①どこでプレパレーションを受けましたか?	
a. 入院していた病院	
b. 外来通院していた病院・診療所	
c. 市保健センターでの健診や予防接種	
d. その他()	
IV このアンケートにご記入いただいている方について	
1 このアンケートにご記入いただいている方について、教えてください。	
続柄 年齢	
() a. 10代 b. 20代 c. 30代 d. 40代 e. 50代	
2 お子さんの人数を教えてください。()人	
3 第1子の年齢を教えてください。()歳 ()か月	
4 保護者の方の勤務状況を教えてください。	
1) 父 ①常勤 ②非常勤・パート ③自営業 ④その他	
2) 母 ①常勤 ②非常勤・パート ③自営業 ④その他	
5 あなたが処置を受ける際、処置の説明をして欲しいと思いますか?	
①必要ない ②あまり必要ない ③だいたいして欲しい ④必ずして欲しい	
ご協力ありがとうございました。	

は、研究者間で繰り返し検討した。また、作成したカテゴリを変数としてSPSS (22.0J) を用いて単純集計した。また作成したカテゴリと子どもの年齢についてt検定を行った。

5. 倫理的配慮

施設長に対して、事前に研究の趣旨と方法を説明し、施設長の承諾を得たうえで、保育士より研究対象者へ研究説明文書・質問紙を配布してもらい、郵送法にて回収した。説明文書には研究の目的・方法および辞退により不利益を被らないこと、発表に際しては個人が特定できないようにすること、研究期間中は質問紙を鍵のかかる場所に厳重に保管し、終了後に破棄することを明記した。また所属大学倫理審査委員会の承認を得た。質問紙の回答と返信により研究の承諾を得たと判断した。

IV. 結 果

193名より返送があった（回収率41.3%）。そのうち、

表2 対象の属性

N=188			
回答者	母親	176名	94.6%
	父親	6名	3.2%
回答者年齢	30歳代	128名	66.7%
	40歳代	35名	18.2%
就労状況 父	常勤	150名	79.8%
	自営業	16名	8.5%
	その他	4名	2.1%
就労状況 母	非常勤・パート	83名	44.1%
	常勤	71名	37.8%
	その他	16名	8.5%
子ども人数	2人	90名	46.9%
	1人	56名	28.2%
子ども性別	男児	96名	49.7%
	女児	81名	42.5%
子ども年齢	6歳	11名	5.9%
	5歳	64名	34.0%
	4歳	42名	22.3%
	3歳	30名	16.0%
	2歳	13名	6.9%
	1歳	13名	6.9%
入院経験	あり	29名	15.1%
定期受診経験	あり	25名	13.0%
痛み処置経験	あり	165名	87.8%
ブレパレーション知識	知っている	10名	5.2%
ブレパレーション経験	経験あり	32名	16.7%

無回答・少数意見は除く

子どもの年齢が1歳未満である1件および記載に不備のある4件を除き、188件を分析対象（有効回答率97.4%）とした。

1. 対象者の属性

対象者の属性は表2に示した通りである。子どもの年齢は1～6歳（中央値4歳）であり、5歳児が64名（34.0%）と最も多かった。

2. 子どもへの説明内容

説明内容に対して記述があったのは148名（回答率78.7%）であり、30のサブカテゴリー、7つのカテゴリーが抽出された（表3）。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >で示す。（ ）は著者の補足説明であり、「 」は記述された文節である。

表3 親が予防接種の際に説明する内容

N=148 コード414

カテゴリー(コード数)	サブカテゴリー(コード数)
動機づけ (160)	病気になるように (97)
	受けないことの悪い影響 (29)
	みんなが経験すること (13)
	受けることの良い影響 (6)
	大切なこと (6)
	病気の説明 (4)
	接種できることの幸せ (2)
	自分のため (1)
	ママのため (1)
	理解できるところまで (1)
予防接種を予告する (107)	注射に行くこと (81)
	医療機関に行くこと (26)
イメージ化を促す (77)	痛いこと (32)
	短時間で終了すること (28)
	経験する内容 (13)
気持ちの後押し (50)	知りたいこと (4)
	頑張ろう (22)
	一緒にいること (10)
	できるよね? (7)
	妹の応援 (1)
	接種時の応援 (1)
	プライドを刺激する (5)
	終了後のご褒美・誉める (4)
	泣いてもいいこと (4)
	うまく乗り切るコツ (4)
対処法を伝える (10)	痛いのは刺したときだけ (1)
	すぐ治るから大丈夫だよ (1)
事実と異なること (5)	事実ではないこと (3)
	不確かかもしれないこと (2)
説明しない (5)	説明しない (5)

表 4 説明内容の組み合わせ

N=148		
カテゴリーの組み合わせ	人数	%
「動機づけ」のみ	34	23.0%
「動機づけ」+「予告する」	34	23.0%
「動機づけ」+「予告する」+「イメージ化促す」	13	8.8%
「動機づけ」+「予告する」+「イメージ化促す」+「気持ちの後押し」	11	7.4%
「予告する」のみ	8	5.4%
「動機づけ」+「イメージ化促す」+「気持ちの後押し」	8	5.4%
「動機づけ」+「気持ちの後押し」	5	3.4%
「予告する」+「イメージ化促す」	5	3.4%
「予告する」+「気持ちの後押し」	5	3.4%
「イメージ化促す」のみ	4	2.7%
「動機づけ」+「イメージ化促す」	4	2.7%
「予告する」+「イメージ化促す」+「気持ちの後押し」	4	2.7%
「イメージ化促す」+「気持ちの後押し」	2	1.4%
「動機づけ」+「予告する」+「気持ちの後押し」	2	1.4%
「動機づけ」+「予告する」+「イメージ化促す」+「対処法を伝える」	2	1.4%
「動機づけ」+「予告する」+「イメージ化促す」+「気持ちの後押し」+「対処法を伝える」	2	1.4%
「動機づけ」+「対処法を伝える」	1	0.7%
「予告する」+「対処法を伝える」	1	0.7%
「予告する」+「イメージ化促す」+「対処法を伝える」	1	0.7%
「予告する」+「イメージ化促す」+「気持ちの後押し」+「対処法を伝える」	1	0.7%
「動機づけ」+「イメージ化促す」+「気持ちの後押し」+「対処法を伝える」	1	0.7%

一番多く記述されていたサブカテゴリーは、＜病気にならないように＞であり、＜（予防接種を）受けないことの悪い影響＞や＜大切なこと＞、＜病気の説明＞、＜受けることの良い影響＞といった【動機づけ】を行っていた。＜（予防接種を）受けないことの悪い影響＞では、「注射しないで病気になるとお友だちと遊べなくなる」、「入院したり死んだりするかもしれない」などの記述があった。

＜痛いこと＞という子どもにとって嫌な事実を伝えつつも＜短時間で終了すること＞、＜経験する内容＞といった【予防接種のイメージ化を促す】ことや＜泣いてもいいこと＞、＜うまく乗り切るコツ＞など予防接種への【対処法を伝える】ことを説明していた。また、＜頑張ろう＞、＜一緒にいること＞、＜プライドを刺激する＞、＜できるよね？＞など子どもの【気持ちの後押し】をしていた。さらに、＜注射に行くこと＞、＜医療機関に行くこと＞という事実を伝えるような【予防接種を予告する】ことをしていた。

説明内容の各カテゴリーの組み合わせを見ると【動機づけ】のみ、【動機づけ】と【予防接種を予告する】の組み合わせが各34名（23.0％）と最も多く、【動機

づけ】、【予防接種を予告する】、【予防接種のイメージ化を促す】の組み合わせが13名（8.8％）であり、【動機づけ】と【予防接種を予告する】、【予防接種のイメージ化を促す】に【気持ちの後押し】を追加した4種類の組み合わせが11名（7.4％）であった（表4）。【動機づけ】、【予防接種を予告する】、【予防接種のイメージ化を促す】のいずれかを含んだ組み合わせであるのは102名（68.9％）であり、【気持ちの後押し】、【対処法を伝える】を含んだ組み合わせは46名（31.1％）であった。

3. 予防接種の説明の際に心がけていること

説明の際に心がけていることに対する記述があったのは137名（回答率72.8％）であり、41のサブカテゴリー、9つのカテゴリーが抽出された（表5）。以下、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを＜ ＞で示す。（ ）は著者の補足説明であり、「 」は記述された文節である。

心がけていることには【理解を促す工夫】の記述が一番多く、＜わかりやすい言葉を使う＞、＜理解しやすい例え＞を用いて＜痛いこと＞、＜経験することを

表5 親が子どもへの説明時に心がけていること
N=137 コード252

カテゴリー(コード数)	サブカテゴリー(コード数)
理解を促す工夫 (71)	痛いこと (18)
	短時間で終了することを伝える (15)
	わかりやすい言葉を使う (13)
	経験することを説明する (7)
	納得するまで説明する (6)
	コツを伝える (5)
	質問にはできるだけ答える (5)
	理解しやすい例え (2)
安心させる工夫 (62)	不安にさせない (34)
	大丈夫と伝える (8)
	ボディタッチ (7)
	子どもの目線で伝える (5)
	普段通りの態度 (4)
	共感する (2)
	明るく話しかける (1)
	できるだけ前向きな言葉 (1)
子どもを後押しする (36)	ご褒美をあげると伝える (9)
	泣いてもいいと伝える (7)
	励ます (6)
	プライドを刺激する (5)
	一緒にいると伝える (5)
	みんなも一緒に伝える (4)
子どもの信頼を損なわない (34)	嘘は言わない (26)
	正直に伝える (8)
動機づけする (19)	予防接種の必要性 (11)
	予防接種の意義 (4)
	家族の心配を伝える (2)
	受けられることの幸せを伝える (2)
親の準備 (10)	親の心構えをして伝える (4)
	泣いても怒らない (3)
	わからないかもしれない (2)
	物でつらない (1)
子どもに合わせる (8)	タイミングを計る (3)
	あまり多くを話さない (3)
	子どもは知っている (2)
説明しない (4)	説明できない (4)
がまんを強いる (4)	嘘をつく (2)
	痛くても我慢するんだよ (2)
その他 (4)	学んだことを自分なりにアレンジ (1)
	経験することを大げさに伝える (1)
	心がけなし (2)

説明する>といった子どもが予防接種のイメージができるような情報を提供し、<短時間で終了することを伝える>、<コツを伝える>、<納得するまで説明する>、<質問にはできるだけ答える>といった子ども

表6 子どもへの説明内容と年齢との関連
N=188

子どもへの説明内容		子どもの年齢 範囲(中央値)		t 値	p 値
動機づけ	する n=109	1~6 (5)		4.27	.00 **
	しない n=64	1~6 (4)			
予防接種を予告する	する n=82	1~6 (4)		-0.31	n.s
	しない n=91	1~6 (4)			
イメージ化を促す	する n=51	1~6 (4)		-1.04	n.s
	しない n=122	1~6 (4)			
気持ちの後押し	する n=35	1~6 (5)		1.68	n.s
	しない n=138	1~6 (4)			
対処法を伝える	する n=9	1~6 (5)		0.63	n.s
	しない n=164	1~6 (4)			
検定は対応のないt検定 *p<0.05, **p<0.01				n.s.	非有意 無回答は除く

表7 子どもへの説明の際の心がけの内容と年齢との関連
N=188

心がけの内容		子どもの年齢 範囲(中央値)		t 値	p 値
理解を促す工夫	する n=49	1~6 (5)		0.83	n.s
	しない n=124	1~6 (4)			
安心させる工夫	する n=48	1~6 (4)		0.44	n.s
	しない n=125	1~6 (4)			
子どもを後押しする	する n=30	1~6 (5)		1.60	n.s
	しない n=143	1~6 (4)			
子どもの信頼を損なわない	する n=30	2~6 (4.5)		1.29	n.s
	しない n=143	1~6 (4)			
動機づけする	する n=17	1~6 (5)		1.13	n.s
	しない n=156	1~6 (4)			
親の準備	する n=9	1~5 (4)		-0.39	n.s
	しない n=164	1~6 (4)			
子どもに合わせる	する n=8	3~5 (4)		0.38	n.s
	しない n=165	1~6 (4)			
検定は対応のないt検定 *p<0.05, **p<0.01				n.s.	非有意 無回答は除く

に理解を促す工夫がされていた。また、<予防接種の必要性>、<予防接種の意義>、<家族の心配を伝える>などの【動機づけする】ことを心がけていた。

【安心させる工夫】として<不安にさせない>、<明るく話しかける>など配慮しながら<大丈夫と伝える>、<ボディタッチ>、<子どもの目線で伝える>、<共感する>、<普段通りの態度>など子どもへの情緒的なサポートをしていた。また【子どもを後押しする】といった<ご褒美をあげると伝える>、<泣いてもいいと伝える>、<一緒にいると伝える>、<みんなも一緒に伝える>、<励ます>ことや<プライドを刺激する>ことをしていた。

予防接種の説明に対して、＜(親が)嘘は言わない＞、＜正直に伝える＞といった【子どもの信頼を損なわない】ようにしていた。また【親の準備】として、＜親の心構えをして伝える＞、＜泣いても怒らない＞、＜物でつらない＞と心がけていた。

【子どもに合わせる】という＜(説明の時期について)タイミングを計る＞や「親が説明するより医師からの方が子どもが納得しやすいから親からはあまり説明しない」という＜あまり多くを話さない＞など、子どもに合わせた工夫がされていた。

4. 説明内容、心がけの記述内容と年齢との関連(表6, 7)

説明内容および心がけの各カテゴリーと年齢についてt検定を行った。有意差がみられたのは【動機づけ】のみであった($t=4.27$, $p<0.01$)。

V. 考 察

予防接種を受ける幼児への親からのかかわりは、子どもが予防接種を受けられるように動機づけやイメージ化を促し、子どもが説明を理解できるように工夫をするとともに、情緒的なサポートなどをしていた。これは、予防接種時のかかわりとして、励ましたり、賞賛したり、プライドを刺激するような言葉を用いるなど子どもを頑張らせるような働きかけをしていた⁸⁾という先行研究と同様であった。説明内容の各カテゴリーの組み合わせでは、動機づけと予防接種を予告することやイメージ化を促すといった認知面への働きかけが約70%も占めることがわかった。子どもにとっての処置は、単に理解できるように説明されることによって前向きに取り組めるというものではなく、認知的・情緒的な葛藤を克服し、精神運動的側面のバランスをとって処置を主体的に受容していることが必要である⁹⁾。また、子どもが主体的に受容するためには過去の体験や自分を奮い立たせたり、ポジティブ思考をして行動するという子どもが自分で行うことと、まわりの他者からのサポートによって選択権を与えたり、強制したりせず、葛藤のゆれを調整する主体が子どもであることを認めること、そして一体感を感じる必要がある⁹⁾。つまり親が予防接種を受ける幼児に対して認知面への働きかけのほかに、子どもが自分の力を出せるように安心させ気持ちを奮い立たせるようなかかわりをする必要があるのである。子どもが予防接種を前向きに取り組むためには親からの肯定的な

映し返しが必要であることから¹⁰⁾、親が子どもの感情の表出を促し、共感することが重要である。しかし、気持ちの後押しや対処法を伝えるといった子どもの気持ちのゆれに対する働きかけは約30%であったことから、本研究の親たちは子どもが気持ちを奮い立たせて予防接種に取り組めるような働きかけが十分にできていたとはいえない。母親の多くが子どもの思いを知りつつも医療者に合わせて強要者になりやすいことから¹¹⁾、子どもの葛藤への落ち着いた対応や子どもの思いを十分に受け止めるための時間を確保することが必要である。

このような親の心理の背景には、予防接種を受けないと「死んだりする」という飛躍した表現で説明していることから親の予防接種を受けさせたいという思いを推察できる。また、親が子どもへ説明できない理由は子どもの理解力や子どもの不安など情緒的なゆれへの懸念があると指摘されていることから¹²⁾、親は子どもの理解力を過小評価し、子どもの認知的・情緒的な葛藤を避けたいという思いがあると考えられる。このような親の心理を理解したうえで、子どもが前向きに予防接種に取り組めるように援助するとともに、子どもの理解力を親とともに認めることが必要である。

親から子どもへ働きかけができるような支援として、親は処置時に子どもの対処能力を高める有効なかかわりが行えないこと⁷⁾、親がかかわるためには親への役割遂行の支援が必要であることから¹³⁾、予防接種時に親が積極的に子どもにかかわれるよう、かかわりの方法を例示し、実践できるように促すことが子どもと親および医療者の一体感を作り出すことにつながる。具体的なかかわり方として、検査・処置中の親へのケアモデル¹⁴⁾にあるように、親が付き添う位置や子どもに触れてもよい部位の提示、直接的な声かけの方法および子どもが泣いても動かなければ構わないことを伝えることなどがある。これらの方法は親が処置にかかわることを奨励し、医療者への気兼ねなく子どもの気持ちを後押しできるとともに、子どもの泣くという情緒表現の機会を保障することにつながるといえる。また、検査・処置を受ける子どもと親の気持ちには子どもの認知能力や痛みの認知、現実の認識に対するずれがあることから¹⁵⁾、親と子どもの思いの違いを双方へ伝えることや親子間での話し合いの機会を設けるなどのかかわりが必要である。

一方で、親が説明するよりも医師からの方が子どもが納得しやすいなどの理由から説明をしない場合もあるため、予防接種を受ける子どもや親の思いや事前のかかわりの状況をふまえて医療者はかかわる必要がある。

VI. 本研究の限界と課題

本研究は、親の就労状況が限定される保育所を対象とした調査であり、今後幼稚園等に通園する親のデータも追加し再検討する必要がある。また、質問紙調査という断続的調査であり、自由記述部分を対象としているため実態を知るには限界があるといえる。また、今回の調査では子どもの年齢による親のかかわりの違いが動機づけ以外はみられなかった。子どもの年齢に応じた個別的なかわりが必要であるため年齢との関連については今後の課題とする。今後、実態を明らかにするために質的調査等も含めた追加調査をしていく必要がある。

VII. ま と め

予防接種を受ける幼児への親からのかかわりは、子どもが予防接種を受けられるように動機づけやイメージ化を促し、子どもが説明を理解できるように工夫をするとともに、情緒的なサポートなどをしており、先行研究と同様であった。また、親のかかわりは子どもへの認知面への働きかけが多く、子どもが自分の力を出せるように安心させ気持ちを奮い立たせるようなかわりが十分にできていないことがわかった。

医療者は親の心理を理解したうえで、子どもが前向きに予防接種に取り組めるように援助するとともに、親からも子どもへ働きかけができるように支援する必要がある。具体的には親が積極的に子どもにかかわれるように、親が付き添う位置や子どもに触れてもよい部位の提示、直接的な声かけの方法および子どもが泣いても動かなければ構わないこと、親と子どもの思いの違いを双方へ伝えることや親子間での話し合いの機会を設けるなどのかかわりが必要である。

謝 辞

本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力くださいました保護者の皆様、子ども福祉課課長様、各保育所の所長様ならびに保育士の皆様に心より感謝いたします。

なお、本研究は埼玉医科大学保健医療学部グラント12-002の一部である。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 岡崎裕子, 植木野裕美, 高橋清子, 他. 採血・点滴を受ける幼児のプレパレーションにおける親の参画に関する親の認識. 日本小児看護学会誌 2011; 20 (2): 33-40.
- 2) 蝦名美智子. 子どもから信頼される医療とプレパレーション. 小児保健研究 2005; 64 (2): 238-243.
- 3) 菅 弘子, 山本靖子, 橋本育世, 他. 小手術を受ける子どもの心理的準備 両親の手術の受入れと子どもへの支援について. 神戸市立看護短期大学部紀要 1995; 14: 185-203.
- 4) 大池真樹. 手術を体験する幼児への母親の関わり 絵本によるオリエンテーションの母親への影響. 宮城大学看護学部紀要 2007; 10 (1): 9-15.
- 5) 山本靖子, 菅 弘子, 橋本育世. 小手術を受ける子どもの心理的準備 (2) 両親による子どもへの支援. 神戸市看護大学短期大学部紀要 1997; 16: 37-45.
- 6) 岡崎裕子, 藤原恵美子, 山下葉子, 他. 計画入院をする子どもへのプレパレーションの効果の検討. 神戸市看護大学紀要 2008; 12: 21-29.
- 7) 流郷千幸, 宮内 環. 幼児の処置場面における保護者のかかわり. 滋賀医科大学看護学ジャーナル 2003; 1 (1): 46-55.
- 8) 園田あや, 木内妙子, 王 麗華. 子どもの予防接種に際して母親が行う説明に関する研究. 日本小児看護学会誌 2009; 18 (1): 9-15.
- 9) 勝田仁美, 片田範子, 蝦名美智子, 他. 検査・処置を受ける幼児・学童の“覚悟”と覚悟に至る要因の検討. 日本看護科学会誌 2001; 21 (2): 12-25.
- 10) 鯨岡 俊, 鯨岡和子. 保育を支える発達心理学関係発達保育入門. 京都: ミネルヴァ書房, 2002.
- 11) 吉田美幸, 鈴木敦子. 検査・処置を受ける幼児後期の子どもが必要としている母親の関わり. 日本小児看護学会誌 2009; 18 (1): 51-58.
- 12) 藤沼小智子, 佐鹿孝子, 坂口由紀子, 他. 予防接種を受ける幼児に親が行う説明の実態～A 市内保育園での調査を通して～. 埼玉医科大学看護学科紀要 2014; 7 (1): 9-17.
- 13) 岡崎裕子, 植木野裕美. 検査・処置を受ける幼児の親と医療者との協働に関する国内の文献検討. 日本小児看護学会誌 2010; 19 (1): 92-102.

- 14) 蛭名美智子. 医療処置を受ける子どものケアモデル, ケアモデル作成の経緯, 小児看護 2008 ; 31 (5) : 579-582.
- 15) 込山洋美, 筒井真優美, 飯村直子, 他. 検査・処置を受ける子どもと親のずれ, 日本小児看護学会誌 2001 ; 10 (1) : 9-16.

[Summary]

To clarify how parents were concerning with their children who should have vaccines, a self-administered questionnaire survey was conducted on 464 parents of children aged from 1 to 6 attending three public nursery schools and two private ones located in the urban area. The free description of questionnaires obtained from

188 parents were analysed by a manner that significant phrases were extracted from the free description and categorized. The survey showed that the parents motivated their children to readily have vaccines and promoted them to imagine and understand the vaccination, and at the same time, tried to support the children from an emotional aspect. However, it was also found that there was a tendency for most parents to try to let their children know the vaccination, and fail to be concerning with their children in such a way that the children could feel relieved and positively struggle against vaccination.

[Key words]

parents, vaccination, children, concern